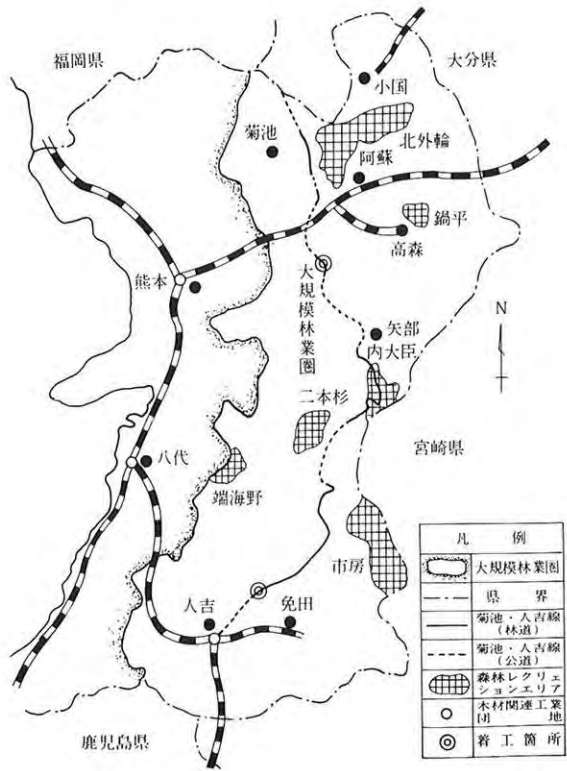


祖母・椎葉・五木山地（熊本圏）開発計画概要図



立てるとともに、地域住民の生活関連道路として重要な役割を果たしています。熊本、大分、宮崎の三県にまたがる「祖母、椎葉、五木山地」一帯は、林業を中心とした大規模な開発を進めるため、大規模林業開発事業の基本計画が昭和四十七年度に策定され、五十年から大規模林道「菊池、人吉線」総延長二百五・一kmが着手されています。昭和五十一年度からは林業を振興することにより、地域全体の発展の中核的に役割を担うと見込まれる林業地帯を指定して、林業生産

基盤の整備、林業従事者の養成確保、林産物の生産流通対策等の諸施策を総合的に計画的に実施するため、中核林業振興地域育成特別対策事業を実施しています。そのほか、林業構造改善事業、製材業構造改善事業等を行っています。その結果、本県素材生産量は、全国第九位を占め、外材のシェアも全国の六五％に對して、二八％と半分以下にとどまっており、他の林産物についても全国有数の産地になっています。

栽培漁業の展開と漁業基盤整備について



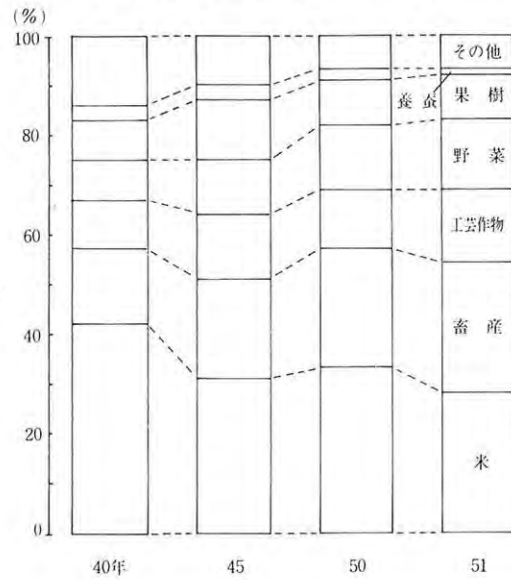
栽培漁業センター（牛深市）

ては、沿岸漁場の生産力を増進させるための沿岸漁場整備開発事業、沿岸漁業経営の近代化と生産性の向上を図る沿岸漁業構造改善事業等を実施しています。なお、有明海魚介類種苗の量産化を図るための施設として、牛深市に栽培漁業センターを建設し、五十三年四月にオープンしました。このほか、中核漁港整備事業も各年次の漁港整備事業に基づいて進めています。

観光については本県は、阿蘇、天草の両国立公園をはじめとして、十地域の自然公園を有し、その特長も高原、森林、海洋等変化に富んだすぐれた自然や文化をもち、歴史的にみても多大の遺産や史跡を持ちあわせています。これらをさらに活用しつつ、地域の特性を生かした健全なレクリエーションの場を積極的につくりあげ、リゾートエリアとしての充実を図る必要があります。

向の持続が予想されるうんしゅうみかんについて、生産・流通・加工の全般にわたる総合的な需給安定対策が昭和五十年から始められ、すでに県内の改植必要面積千四百haのうち三百七十五haを実施しています。また、生産、流通の両面にわたって各種の近代化施策が総合的に整備されたことにより、需要に適合した計画出荷体制が確立され、また集出荷体制の合理化による銘柄産地の形成が促進されています。

農業粗生産額の作物別構成比の推移



畜産については、経営基盤の整備拡充を目的として、肉用牛等の畜産団地整備の育成事業等を積極的に促進してきました。この結果、一農家当たり平均飼養頭数は、昭和四十五年の二・四頭から五十二年には四・九頭に拡大し、食肉需要に対応するための生産性の高い肉用牛繁殖経営の育成に役立っています。

また、中核的農業自営者の養成確保を目的とした県立農業大学校建設事業は、昭和四十七年度から調査を始め、五十二年には建設工事に着手し、五十三年四月に開校（菊池郡合志町・県畜産試験場北側）しました。

林業の振興については、国土の保全、水源のかん養、自然環境保全などの森林の持つ公益的な機能に配慮しながら、林頭と、県内処理頭数の約四〇％を処理しています。このうち豚八〇％、牛一〇％を県外に移出し、産地処理、県外出荷の基幹食肉センターとしての役割を高めており、農家所得の向上に寄与しています。このほか果汁加工施設の建設、牛乳処理工場建設の促進などを図ってきました。



本県の素材生産量は全国9位（人吉市）

業総生産の増大を図ることをねらいとして各種事業を実施してきました。森林資源の充実を図るための造林事業を始め、下刈、除間伐等の保育事業も推進してきました。その結果、五十一年度末の人工

林率は五九％と、全国の人口林率の一・五倍に達しています。林業経営の基盤となる林道は、昭和四十八年〜五十二年の五カ年間に百二十kmを開設し、地域林業の経営合理化に役